

【使命】 = 基本理念(美術館のめざす姿)		静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的にめざします。その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。									
基本方針	重点目標	計画(P)					実施状況(D)		評価(C)		
		評価指標					R5日標	R5実績	自己評価		
			R1実績 開館274日	R2実績 開館276日	R3実績 開館138日	R4実績 開館274日		R5実績 開館228日			
A 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	1 収集方針に従い持続的に作品を収集します	1 作品購入件数・価格(件・千円)	3 10,000	4 9,050	5 9,470	0 0	— 千円	2 1,000 千円	【成果】 ・作品購入のための予算を少額ではあるが確保でき、静岡ゆかりの重要作家の作品収集につなげることができた。 ・7名の方から18件の作品寄贈を受け、コレクションを充実させた。多様なジャンルにまたがるご寄贈であり、日頃の地道な活動が評価されたひとつの表れであるとする。 ・コレクションによる企画展「センス・オブ・ワンダー」では、新たな切り口でコレクションの魅力を示して話題を呼び、見込みを大きく上回る観覧者を得た。 ・永青文庫とのコラボレーション企画「大名家の名宝」展では、質量ともに厚みのある当館の狩野派コレクションについて新たな魅力を発信することができた。 ・コレクションを活用した上記2件の企画展開催により、コレクションの価値の発見・発信を進めた。 ・前年度新収蔵品の額装等を実施し、作品の保存・公開のための環境整備が進んだ。		
		2 作品寄贈件数・価格(件・千円)	16 10,770	4 6,800	9 73,900	76 1,099,050	— 千円	18 22,670 千円			
	2 コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます	3 収蔵品の公開件数(件)	307	378	231	393	350 件	416 件			
		4 収蔵品展のみの観覧者数(人)	10,542	10,443	2,619	8,296	10,000 人	8,696 人			
		5 ロダン館の観覧者数(人)	64,700	76,874	25,261	51,380	55,000 人	29,406 人			
		6 収蔵品に関する調査研究の発表回数(回)	※	※	7	6	10 回	9 回			
		7 コレクションを活用した教育普及プログラム数(件)	20	14	12	16	20 件	18 件			
		8 修復したコレクションの件数・費用(件・千円)	※	※	32 3,699	6 496	4,000 千円	18 4,643 千円			
		9 公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	—	—	—	別添	—	別添			
B 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	10 展覧会の来館者数(人)	113,362	141,893	53,247	98,861	71,500 人	55,565 人	【成果】 ・企画展において作品やテーマに興味を持った人の割合は概ね高い数値を維持しており、それぞれの企画展において観覧者の興味を惹く工夫ができた。 ・調査研究の発表件数は、大きく伸びた令和4年度の実績を下回ったものの、過去の実績と比較して、また学芸員が実質2名減の状況のなかで、健闘したものとする。		
		11 自主企画・企画参加型の展覧会の回数(回)	4	2	3	4	3 回	3 回			
		12 作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	85.8	90.6	91.8	91.8	92.0 %	92.1 %			
	2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	13 展覧会に対する外部評価【定性】	—	—	—	別添	—	別添	【課題】 ・観覧者数の全体では見込みを下回った。実際に展示を見た方には作品やテーマに興味を持ってもらえるものの、内容の充実や見せ方の工夫が観覧者数に結び付いていないと見受けられ、企画展個々の周知にとどまらず、美術館の認知度を高め、魅力ある場所と認識してもらうための対策が必要である。 ・他の美術館や大学との連携は横ばいの状態となっている。連携の重要性についての認識と相互交流は深まりつつあり、具体的な成果につなげていくよう、落ち着いた環境を整えていきたい。		
		14 調査研究の発表回数(回)	11	10	17	26	16 回	21 回			
		15 内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	11	10	11	11	12 回	11 回			
		16 他の美術館や大学と連携した取組件数(回)	3	2	3	3	4 回	3 回			
17 調査研究に関する外部評価【定性】	—	—	—	別添	—	別添					
C 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	18 学校教育と連携した取り組み数(件) うち特別支援学校と連携した取り組み数(件)	196 10	67 10	44 10	91 10	120 12 件	100 8 件	【成果】 ・新型コロナウイルス感染症の5類移行にともない、学校団体による利用はおおむねコロナ禍前の状況に回復した。 ・webの活用については、ボランティアによるオンラインギャラリートナーを試験的に実施した。 ・館内空間を生かした催事については、展覧会関連ワークショップの成果品展示やボランティアによるお茶サービスなどを無料スペースを活用して実施した。館外についても、美術館裏山でのパフォーマンス実施やボランティアによる彫刻プロムナードギャラリートナーの試行など、活用が広がっており、当館ならではの館内外の環境を利用した新しい事業展開が進んでいる。		
		19 鑑賞系プログラム数(件)	21	15	12	17	16 件	19 件			
		20 webを活用したプログラム数(件)	※	※	0	2	4 件	3 件			
	2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	21 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】	—	—	—	別添	—	別添			
		22 講演会等の開催件数(回)	161	48	28	79	100 回	86 回			
		23 学芸員のフロアレクチャー等の回数(回)	100	43	24	67	80 回	46 回			
		24 館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	69 6,989	15 18,328	1 383	8 1,598	12 2,000 件 人	10 3,042 件 人			
	3 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します	25 地域住民等と連携した取組数(件)	8	2	4	7	8 件	7 件			
		26 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート【定性】	—	—	—	別添	—	別添			
D さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	1 広報戦略を策定し、広報の質を高めます	27 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合(%)	75.0	78.5	80.1	75.5	80.0 %	79.1 %	【成果】 ・令和4年度から公開したデジタルアーカイブについて、今年度は専門書籍の書誌情報を充実させることができ、公開件数を大幅に増やすことができた。またボランティアとの連携により情報公開件数は順調に増加している。 ・新たなイベントとの連携や県内大学への大学事務局を通したメール配信を行った。		
		28 デジタルアーカイブによる情報発信 ・作品作家情報の追加および更新件数/全公開件数(件) ・現代美術関連資料の公開件数(件) ・図書情報の公開件数(件)	※ ※	※ ※	2,934 6,304 9,534 22,651	288/3,010 9,534 23,293	300/3030 12,000 23,900	749/3,030 12,088 29,923	【課題】 ・デジタルアーカイブをさらに充実したものにしていくには、予算の確保が課題である。 ・SNSに関しては、個人に頼っているため、誰でもできる体制づくりが必要である。 ・広報は各職員が業務の一部として行っている。戦略的な広報ができていないため、専門的な知識を有した人材の活用が求められる。 ・観光業界等との連携が一過性のものにとどまらないよう、継続的な連携関係構築の対策が必要である。		
		29 ホームページのアクセス件数(件)	1,085,837	1,460,987	938,877	1,240,277	1,200,000 件	1,062,287 件			
		30 facebook、インスタグラム、ツイッターのビュー数(件)	※	※	989,677	719,846	1,000,000 件	869,669 件			
		31 facebook、インスタグラム、ツイッターのエンゲージメント等の件数(件)	※	※	29,470	24,556	30,000 件	29,352 件			
	2 観光業界等と連携した新たな広報チャンネルの開拓に取り組めます	32 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数(件)	9	5	6	7	7 件	14 件			
		33 教育機関への情報発信数(件)	※	※	6	3	6 件	7 件			
		34 広報手法における新たな取組状況に関する美術館職員のレポート【定性】	—	—	—	別添	—	別添			
	E 環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます	1 館内施設を充実させ、満足度を高めます	35 美術館利用者数(人)	217,675	241,152	77,741	167,009	200,000 人	112,426 人	【成果】 ・中期維持保全計画に基づき、施設の改修・整備を適切に行った。 ・レストラン・ミュージアムショップに対する満足度は高い数値を維持している。 ・芸術文化振興基金の助成金の獲得や、ふるさと納税制度及び地方創生応援税制を活用し、館蔵品の取得のための財源確保をはかった。	
36 鑑賞環境に対する満足度(%)			88.3	80.6	90.3	85.3	90.0 %	91.7 %			
37 レストランに対する満足度(%)			63.0	89.7	92.4	94.4	92.0 %	94.5 %			
38 ミュージアムショップに対する満足度(%)			94.0	91.8	97.1	97.1	97.0 %	97.5 %			
2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます		39 来館者のアクセス満足度 上段:公共交通機関利用 下段:自家用車利用	68.6 64.9	68.8 54.7	67.8 55.7	80.9 60.3	80.0 % 70.0 %	74.5 % 70.8 %	【課題】 ・開館から37年が経過し、施設の老朽化が進行している。引き続き、施設の適切な維持管理に努めるとともに、中期維持保全計画に基づく改修を計画的に進める。 ・県内企業との関係強化のため、引き続き連携の維持・強化のための働きかけを行っていく必要がある。		
		3 運営基盤を強化します	40 運営基盤の強化等に関する職員レポート【定性】	—	—	—	別添	—	別添		

※は新設指標のためR2以前の数値無し 指標28:追加および更新件数と、全対の公開件数を個別に示すこととした

設置者の取組	取組の状況	第三者評価委員意見
	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県は、令和5年の東アジア文化都市として選定され、県立美術館の企画展やイベントについて、東アジア文化都市の祝祭プログラム(コア事業)として実施することができた。 県立美術館を初めとした多くの文化資源が集積する日本平周辺の地域としての連携を強化し、観光の振興と地域の活性化につなげる事を目的として、県は文化観光推進法に基づく地域計画を文化庁に申請している。 中期維持保全計画に基づいた改修工事(本館非常用発電設備更新など)を行っている。 	

基本方針	A 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します
------	----------------------------

計画(P)			実施状況(D) R6.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	R5目標	実績	備考	自己評価
1 収集方針に従い持続的に作品を収集します	1 作品購入件数・価格(件・千円)	— 千円	2 件 1,000 千円		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 購入予算をどうにか捻出し、当館ゆかりの重要作家である川村清雄の作品2件を購入することができた。掛幅装の油彩画と、徳川家達の近侍で静岡藩の高位藩士でもあった人物の肖像画であり、川村の画家としての特色を示す優品として今後おいに活用が期待できる。 日本画・日本洋画・西洋画・現代美術と全ジャンルにわたってご寄贈をいただくことができた。地道な調査研究や展覧会開催等の日頃の基本的な活動の充実が実を結んだものと考えます。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 購入予算がついたとはいえ100万円以内で購入できる優れた美術品は極めて限定的である。現在のコレクションを生かしていくためにも、購入活動の継続は美術館にとって生命線であり、拡充が求められる。県庁と協力して仕組みの検討が必要である。 今後も継続して購入、寄贈の候補となり得る作品の情報収集に務め、収集に結び付けていく必要がある。
	2 作品寄贈件数・価格(件・千円)	— 件 千円	18 件 22,670 千円		
2 コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます	3 収蔵品の公開件数(件)	350 件	416 件	指標3 収蔵品展(180)・企画展(113)・移動美術展(52) + 貸出(71)	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収蔵品の公開件数は、収蔵品企画展(センス・オブ・ワンダー)、当館コレクションを活用した他館連携企画展(大大名の名宝)の開催により増加した。 予算を捻出し、R4年度のご寄贈品について当年度では対応できなかった額装作業等を実施した。ご寄贈作品を適切に保管・展示できる状態にし、今後の活用に結び付けることができた。 作品の海外出品の機会を利用し、外部予算によって作品修理を行うよう手配した。 収蔵品展では、前年度寄贈を受けた太田正樹コレクションについて特集展示を行い、大きな反響があった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年はロダン館開館30周年であり、周年記念展の開催を通してロダンの理解を深めるとともにロダン館の周知につなげていく。 収集した作品を適切に保管し、活用につなげるためにも修復費用の手当は毎年必須であり、今後も予算確保に務める。同時に、貸出の機会を修復に結び付けることで、コレクションの保全と活用の両面で成果を挙げており、今後も工夫を続けたい。 コレクションに関するこれまでの調査研究・収集・展示といった基礎的な活動が、令和5年度は「大大名の名宝」展開催という成果に結び付いた。コレクションを基盤とする活動展開のため、今後も基礎的な活動の充実に努める。
	4 収蔵品展のみの観覧者数(人)	10,000 人	8,696 人	指標7 詳細は「教育普及実数内訳」参照	
	5 ロダン館の観覧者数(人)	55,000 人	29,406 人		
	6 収蔵品に関する調査研究の発表回数(回)	10 回	9 回		
	7 コレクションを活用した教育普及プログラム数(件)	20 件	18 件		
	8 修復したコレクションの件数・費用(件・千円)	4,000 千円	18 件 4,643 千円		
	9 公開・貸出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	別添	別添		

基本方針 B 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します

計画(P)		実施状況(D) R6.3.31現在		評価(C)	
重点目標	評価指標	R5目標	実績	備考	自己評価
1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	10 展覧会の来館者数(人)	71,500 人	55,565 人	◆は、自主企画展	<p>【成果】</p> <p>・センス・オブ・ワンダー 五感による作品鑑賞の楽しみをコンセプトとし、古い西洋画から最新の美術作品まで、当館の多様性に富むコレクションを、楽しみながら現実(リアル)に感じていただくことを目指した展覧会である。当館所蔵品として有名な作品を、このような新たなテーマの設定により紹介することに加え、これまで展示の機会があまりなかった作品も公開することができた。また全身で作品を体感する呼び水として、作品のレプリカや彫刻の素材に触れられる展示や、自然の音や音楽を流すことにより視覚と聴覚に訴えかける工夫なども行なった。展覧会のテーマの分かりやすさ、鑑賞のきっかけの工夫、またメイン・ビジュアルに草間彌生の作品を起用したことなどが功を奏したと思われ、当初見込みよりも倍以上の入場者にご来場いただいた。</p> <p>・糸で描く物語 時代と地域を越えて発展してきた表現技法である刺繍の魅力を約230点の出品作品を通して紹介した。中・東欧の民俗衣装、イヌイットの壁掛け、フランスのオートクチュール刺繍から現代の絵本原画やイラスト、アートまで、さまざまな分野を横断する多彩な出品作で構成され、刺繍技法を用いたいわゆる現代アートを主に紹介するこれまでの美術館での刺繍展とは一線を画する企画であった。家族連れや刺繍好きの方への特別割引サービスを実施し、近隣小学校や手芸店などにチラシを配布した結果、夏休みの子どもたちへのアプローチや新規の来場者開拓には一定の効果があった。また、当館に普段足を運ぶ利用者にとっても、旧来の主たる技法にとらわれない多様な表現に触れる機会となったはずである。</p> <p>・大大名の名宝 当館が長年にわたり調査研究を深め収集と展示を行ってきた狩野派について、大大名・細川家の名品と当館コレクションを組み合わせ構成、400年に及ぶ狩野派の歴史を名品によってたどり、その魅力を伝える内容とした。大名家ならではの狩野派が関わった調度品や中国絵画の鑑定に関する仕事など、絵画制作だけではない狩野派の幅広い役割について最新の研究成果を含めて紹介した。また、肥後狩野派の画業にも注目し、地元熊本以外では公開機会のなかった作品群を展示、その成立と展開について考察し、新知見を提示した。両館のコラボレーションにより、コレクションを基礎にして狩野派研究の進展に貢献することができ、収集、展示、調査研究を連関させた美術館活動の成果を形にすることができた。</p> <p>・天地耕作 静岡出身の3名による野外美術制作プロジェクト「天地耕作」の美術館初の回顧展となった。作品の残らない彼らの活動について、写真を中心に、映像や資料、詳しい年表をあわせて展示することで、その全貌を紹介することができた。また、記録だけでなく、展示室内での新作インスタレーションや美術館裏山での野外制作により、天地耕作の作品を体験する機会を提供することができた。関連イベントを多数実施し、鑑賞を深める機会を様々に用意した。これまで静岡の現代美術を中心に据えた企画は多くなかったが、収蔵品展とも関連させることで、当県の現代美術を跡づけることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・センス・オブ・ワンダー 全ジャンルの所蔵品を出品したが、他の展覧会との兼ね合いにより、日本画が少ない展示となった。鑑賞者それぞれの感覚を用いた作品鑑賞をコンセプトとしたため、文字による説明は章ごとのパネルや個々の作品解説にとどめた。これらの解説が分かりやすいとのご意見もある一方で、図録がほしいとのご意見もあり、所蔵品のカタログをどのように充実させてゆか、今後の参考課題となった。</p> <p>・糸で描く物語 担当学芸員が内容に関与しない巡回展である本展は、より広く多くの方にお越しいただくことを展覧会関連業務の優先課題とし、マスコミとの共催を行わず、オンラインPR配信会社の利用をのぞいては自力での広報を試みた。また、図書館との連携イベント等によってチャンネルを増やす努力も行った。結果、アンケート結果に見る展示の内容面での満足度は高く、また、監視スタッフからの証言によると、リピーターも多く見られたが、集客数が目標に及ばなかった。これは、当館の元々の認知度の低さと、学芸員や企画総務課担当者による広報の限界と言える。会期中に開催したクラフト市「GARDEN」への来場者数を見ても、手仕事やデザインに関心を持つ層は厚く、また熱心であるため、潜在的な来場者はもっといたと推測する。広報専門の職員を置くなど、適切なマーケティングを反映した広報戦略を実行できる体制が望まれる。</p> <p>・大大名の名宝 子どものための分かりやすい解説やハンドアウトなど、幅広い観覧者に狩野派の世界に親しんでもらう対策まで手がまわらなかった。狩野派の充実したコレクションと展覧会の実績を踏まえて、今後は、狩野派についての語り方・伝え方を工夫し、その魅力を広く理解していただくための教育普及面での努力が必要である。 集客の点では目標に届かなかった。過去の狩野派展の検証をもとに広報面の工夫が必要である。</p> <p>・天地耕作 来館者数は目標を達成したが、特別講演会では著名な研究者を招へいしたにもかかわらず振るわなかった。より積極的な広報が必要だったかと思われる。前年度から計4回大学に出講したが、教育普及としての意義はあったと言えるとしても、人数で言えば広報効果は薄かったようだ。若者層に向けたPRについては、再検討の余地がある。また、展示室内での来館者の撮影は禁止としたため、ウェブ等でそれを補う広報をすれば、来館を検討する方にとっては親切であったらう。</p>
	◆センス・オブ・ワンダー(72日間)	7,000 人	16,611 人		
	糸で描く物語(50日間)	25,000 人	13,689 人		
	◆大大名の名宝(48日間)	12,000 人	8,290 人		
	◆天地耕作(40日間)	5,500 人	5,560 人		
	収蔵品展(228日間)	12,000	8,696 人		
	移動美術展 (小山町総合文化会館・沼津市民文化センター)	10,000	2,719 人		
	11 自主企画・企画参加型の展覧会の回数(回)	3 回	3 回		
	12 作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	92 %	92.1 %		
	13 展覧会に対する外部評価【定性】	—	別添		
2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	14 調査研究の発表回数(回)	16 回	21 回	指標14 論文発表(12)+外部出講(9)	<p>【成果】</p> <p>・令和4度の調査研究の発表回数は前々年度までに比べて大きく伸びたが、令和5年度は平均的な数値に戻った。 ・調査研究に関する外部評価では、研究活動評価委員から、展覧会、論文等に対して高い評価を得た。</p> <p>【課題】</p> <p>・展覧会や作品収集のベースとなる調査研究は継続的な強化が必要であるが、実績数値は横這いが続いている。令和5年度については学芸員が実質2名減の状況であったことも影響しているが、調査研究に落ち着いて取り組める環境の整備が必要である。 ・内部セミナー、研修等については、学芸課研究会以外の多様な機会の創出のため、工夫が必要である。</p>
	15 内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	12 回	11 回	指標16 静岡県博物館協会事務局、公益財団法人永青文庫との連携による企画展開催、客員学芸員による企画展	
	16 他の美術館や大学と連携した取り組み件数(回)	4 回	3 回		
	17 調査研究に関する外部評価【定性】	別添	別添		

基本方針 C 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

計画(P)			実施状況(D) R6.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	R5目標	実績	備考	自己評価
1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	18 学校教育と連携した取り組み数(件) うち特別支援学校と連携した取り組み数(件)	120 件	100 件 8 件	詳細は「教育普及実数内訳」参照	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験系プログラム、美術館教室の参加者数は多く、全体では計画の人数を超過した。学校関係に関しては、新型コロナウイルス感染症の5類以降にともない、学校団体の利用が回復したと思われる。昨年度減少していたアートカード貸出の数も回復した。 特別支援学校に関しては、件数は微減となったが、えのぐ、ねんど教室への参加で5件、教材貸出3件があり、参加しやすいプログラムを提供できていると言える。 鑑賞系プログラム数については、夏休み子どもワークショップや未就学児向けワークショップに鑑賞を組み込むことで、件数が昨年より増加した。 webを活用したプログラムに関しては、ボランティアのギャラリーツアーのオンライン実施を試行的に行った。なお、昨年度開発したオンライン鑑賞教育プログラムは現在も利用可能である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者数で言えば計画人数を達成しているが、ねんど、えのぐ開放日などは参加希望が多く、その人数に対応しきれていない状況である。 学校向けボランティアスタッフとの鑑賞では、希望する団体がなく、より伝わりやすいプログラム内容の紹介などが必要と考えられる。 オンラインでのギャラリーツアーはまだ試行の段階のため、ブラッシュアップし、プログラムのラインナップに加えていきたい。
	19 鑑賞系プログラム数	16 件	19 件		
	20 webを活用したプログラム数(件)	4 件	3 件		
	21 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】	—	別添		
2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	22 講演会等の開催件数(回)	100 回	86 回	<p>指標22 指標23+特別講演会・シンポジウム(6)+ボランティア等によるギャラリーツアー(32)+演奏会等(2)</p> <p>指標23 美術講座(7)+フロアレクチャー(27)+オリエンテーション(6)+出張美術講座(3)+展示関連普及事業(3)</p> <p>指標24 ちよこっと体験(3件1514人)+ロダン館コンサート(2件563人)+ロダンウィーク・大大名の名宝展クイズラリー(1件208人)+ボランティアによる情報コーナー等でのお茶会(3件608人)+エントランスにおける企画展開幕記念レセプション(県産品による展覧会関連メニューの試食付)(1件149名)</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講演会等については、様々な分野の専門家やアーティストを招へいするものや、職員やボランティアによるものなど多数実施することができた。ガストロノミー・リズム講演会は、美術ファンのみならず、幅広く関心を集めるものとなった。 フロアレクチャー等については、子ども向けのお話会実施もあり、様々な層へのアプローチを行った。 館内空間を生かした催事については、ちよこっと体験やお茶会などに多数の参加があり、賑わいを創出できた。「糸で描く物語」展や「天地耕作」展では、ワークショップの成果物を無料エリアで展示することも行った。付け加えると、館外だが、彫刻プロムナードでのギャラリーツアー試行実施や、裏山でのパフォーマンス実施、わくわくアトリエ、未就学児向けワークショップでの園地利用など、周辺環境を生かした催事も行った。 「大大名の名宝」展開会式にあわせてエントランスで記念レセプションを実施した。県産の食材を利用した企画展開連メニューの試食や美術館産の茶葉によるボランティアの呈茶など、静岡らしい内容で来場者をもてなし、好評を得た。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指標23については、フロアレクチャーは例年並みの実施回数だったが、オリエンテーションの実施が少なく、参加人数も減少している。学校団体へは、他プログラム希望の場合でも、あわせての参加を呼びかけるなども考えられる。 講演会等の人数に関して言えば、特別講演会の人数が振るわなかった。内容や講師の紹介など、広報の工夫を検討したい。 プロムナードでのギャラリーツアーはまだ試行実施の段階のため、ブラッシュアップし、ギャラリーツアーのラインナップに加えていきたい。 エントランスや情報コーナーにおける飲食を伴う催事の開催は、虫害対策のうえで適切な準備と管理が必須となるが、館内空間を活用し館の魅力を高める上で有効と考えられる。今後も慎重な対策のもとで実施を検討していきたい。
	23 学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	80 回	46 回		
	24 館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	12 件 2,000 人	10 件 3,042 人		
3 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します	25 地域住民等と連携した取組数	8 件	7 件	<p>指標25</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動 館内レストランとの連携 「文化の丘フェスタ」クイズラリー 県立大学と連携した「ムセイオン静岡」の講義 草薙商店会との連携 一般社団法人「草薙カルテッド」との連携 美術館ボランティア「地域連携・草薙ツアー」グループとのイベント企画 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動については、任期を1年として更新可能にすると同時に、資格年齢を20歳から18歳に引き下げ、学生等の若年層にも参加しやすいものとした。令和5年度は125名を採用した。 館内レストラン「ロダンテラス」と連携し、企画展ごとに、県産食材を使用した特別メニューの提供を行った。 ボランティア地域連携・草薙ツアーグループが、美術館の茶畑でのお茶摘みのイベントやそこで採れたお茶を使用した呈茶を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光業界やアーツカウンシルしずおかとの連携など、地域連携のあり方を引き続き検討していく必要がある。
	26 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート【定性】	—	別添		

基本方針 D さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

計画(P)			実施状況(D) R6.3.31現在				評価(C)
重点目標	評価指標	R5目標	実績	備考	自己評価		
1 広報戦略を策定し、 広報の質を高めます	27 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合	80.0 %	79.1 %		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルアーカイブにおいては、これまで未公開であった約6,000冊の専門書籍の書誌情報を校正し公開することができ、図書情報の公開件数が大幅に増加した。 現代美術関連資料では、ボランティアによる入力作業が継続されており、今年度は、2500件を超える資料情報が新たに加わった。 前年度までに公開済みであったいくつかの作品に対し、画像の追加登録を行った。 ホームページへのアクセス数は、前年度に比して2割ほどの減少を見せた。この変化は、今年度に大型の文明展がなかったことに起因するとみられる。 SNSのインプレッション数、エンゲージメント数はいずれも向上している。「糸で描く物語」展の会期中に、X(ツイッター)によって頻繁に情報発信を行ったためである。また、ロダン館で撮影された乃木坂46のミュージックビデオに関する投稿は大きな注目を集めた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後とも図書情報の追加公開や現代美術関連資料の遡及入力を継続して実施し、デジタルアーカイブの充実に努める。前者については、書誌情報の校正作業のための予算確保が課題である。 SNSではユーザー定着のために継続的に発信していくことが求められる。展示会の見どころやイベントスケジュール等の情報集約の仕組みを整えるとともに、情報発信の必要性の理解を館内で徹底する必要がある。 		
	28 デジタルアーカイブによる情報発信 作品作家情報の新規公開・更新件数/全公開件数 (件) 現代美術関連資料の公開件数(件) 図書情報の公開件数(件)	300/3030 12,000 23,900	件 件 件	749/3,030 12,088 29,923		件 件 件	
	29 ホームページのアクセス件数	1,200,000	件	1,062,287		件	
	30 facebook、インスタグラム、ツイッターのビュー数(件)	1,000,000	件	869,669		件	
	31 facebook、インスタグラム、ツイッターのエンゲージメント等の件数(件)	30,000	件	29,352		件	
2 観光業界等と連携した 新たな広報チャンネルの 開拓に取り組めます	32 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数	7 件	14 件	<p>指標32</p> <ul style="list-style-type: none"> 旅行会社による美術館めぐりツアーへの協力 ガストロノミーツーリズム関連ツアーへの協力 アニマルピックフェスタへの参加 東アジア文化都市イベントとのコラボ 他美術館等講演会での紹介2件 大学の講義内で紹介3件 館内レストランにおける展覧会関連メニューの提供4件 乃木坂46のミュージックビデオの撮影 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> (一財)静岡新食文化共創機構の企画するガストロノミーツーリズム関連ツアーに協力した。 「東アジア文化都市2023静岡県」や浜名湖での大型イベントなど、他イベントにコラボして参加した。館内の賑わい創出や、アウトリーチにもつながった。 ロダン館において乃木坂46のミュージックビデオの撮影を受け入れたことで、実際の来館や利用者によるSNS発信につながり、ロダン館の魅力発信に大変有益だった。 静岡県立大学、静岡文化芸術大学、静岡産業大学の学生に対し、事務局を通じて一斉メールで企画展の内容を広報した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携及び観光業界との連携を模索し、来館者増加に向けた美術館の発信力を更に高める必要がある。 		
	33 教育機関への情報発信数(件)	6 件	7 件	<p>指標33</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学の講義内で紹介3件 事務局を通じた県内3大学の学生への広報4件 			
	34 広報手法における新たな取組状況についての美術館職員のレポート【定性】	別添	別添				

基本方針 E 環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます。

計画(P)		実施状況(D) R6.3.31現在		評価(C)	
重点目標	評価指標	R5目標	実績	備考	自己評価
1 館内施設を充実させ、満足度を高めま す	35 美術館利用者数	200,000 人	111,856 人	令和5年度は次の工事(小規模を除く)を行った。 ・本館外壁タイル他修繕工事 ・本館ラウンジ他窓サッシ改修工事 ・駐輪場・バス停塗装修繕工事 ・本館荷受室他シャッター更新工事 ・本館非常用発電設備更新工事 ・本館吸収式冷温水発生機(R-4) ・本館消火ポンプ設備更新工事 ・本館送風機更新工事 ・本館レストラン空調機更新工事 ・ロダン館屋根シーリング修繕工事	【成果】 ・「美術館利用者数」は目標を達することができなかったが、当館収蔵品による企画展「センス・オブ・ワンダー」は目標を大きく上回る来館者があった。 ・令和5年度は、合計3ヶ月休館して中期維持保全計画に基づく工事を行った。劣化診断で指摘された外壁タイルの修繕や、結露のひどい窓サッシの修繕を行った。その他空調関係や非常用発電設備、消火ポンプ等も修繕し、快適な鑑賞空間が保たれるようになった。 ・屋外彫刻プロムナードの落枝による被害防止と景観を維持するため、高木等の剪定を行った。 ・レストランの満足度は94.5%であり、昨年に引き続き高い評価だった。食材の高騰やコロナの影響による人員不足もある中、ガストロノミー・ツーリズム事業により県産材を使用した特別メニューを提供するなど工夫を図った。 ・ミュージアムショップの満足度も97.5%と高いところで安定している。企画展にあわせて商品の品揃えやレイアウトを工夫していることの成果であると考えられる。 【課題】 ・開館から37年が経過し、施設の老朽化が進行している。引き続き、施設の適切な維持管理に努めるとともに、令和2年度に策定した中期維持保全計画に基づく改修を計画的に進めていく必要がある。 ・レストラン、ミュージアムショップの運営は、業者に委託をしているが、利用者数は来館者数にほぼ比例する。美術館としても来館者のニーズの把握に努め、引き続き高い満足度を維持していく必要がある。
	展覧会観覧者数		54,995 人		
	教育普及プログラム参加者数		13,751 人		
	ミュージアムコンサート等入場者数		1,027 人		
	県民ギャラリー入場者数		20,002 人		
	講堂入場者数		4,501 人		
	レストラン利用者数		7,761 人		
	ミュージアムショップ利用者数		8,529 人		
	図書閲覧室利用者数		1,290 人		
	36 鑑賞環境に対する満足度	90.0 %	91.7 %		
37 レストランに対する満足度	92.0 %	94.5 %			
38 ミュージアムショップに対する満足度	97.0 %	97.5 %			
2 周辺環境やアクセスの利便を向上させま す	39 来館者のアクセス満足度 ※上段:公共交通機関利用 下段:自家用車利用	80.0 % 70.0 %	74.5 % 70.8 %	【成果】 ・当館の利用交通機関で最も多い自家用車でのアクセス満足度は、令和4年度の60.3%から70.9%と向上し、目標の70.0%を達成した。混雑が予想される際には、駐車場待ちによる交通渋滞を招かないよう、隣接する県立大学の職員駐車場の借用や交通誘導員の配置などの対応を行った。また、公共交通機関を利用するよう、ホームページやSNSで呼びかけを行った。 【課題】 ・駐車場については、敷地内に400台の無料の駐車場があるものの、県大芝生広場利用者や散歩の方など、美術館来館者以外の方も駐車している。来館者が多くなると美術館に近い第三駐車場が満車になり、他の駐車場は美術館までの徒歩区間が長く、登り坂であることがアクセスに満足できない要因になっている。	
3 運営基盤を強化しま す	40 運営基盤の強化等に関する職員レ ポート【定性】	別添	別添		
				【成果】 ・「天地耕作展」では、芸術文化振興基金の助成金交付を受け事業を実施した。 ・令和4年3月から、県内企業との関係強化を目的として静岡県経営者協会と連携している。会員の交流会に参加し、今年度は館長が講師となって講演会を行った。また、美術館の年間スケジュールや企画展のちらしを配布した。 ・令和6年度企画展への協力を仰ぐため、企業訪問を行い、信頼関係の構築を図った。 ・ふじのくに応援寄附金(個人版ふるさと納税)では234万2千円の寄附があった。地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)の10万円の寄附は、館蔵品の取得に充当した。 【課題】 ・国や財団法人からの補助金、民間企業からの協賛金、ふるさと納税を活用した企業や個人からの寄附金など外部資金の確保に向け、引き続き積極的に動いて行く必要がある。 ・県内企業に社員教育や福利厚生、顧客へのサービス向上のために、美術館を活用してもらい、企業の企画展チケット購入や寄附につなげていく必要がある。	

令和5年度 評価指標7、18、19内訳（教育普及プログラムの実績）

事業名	評価指標7	評価指標18			評価指標19
	コレクション活用プログラム	学校教育と連携した取組数	人数	うち特支と連携した取組数	鑑賞系プログラム
特別講演会	○		403		○
美術講座	○		339		○
フロアレクチャー	○		635		○
ギャラリーツアー	○		171		○
オリエンテーション ※人数は学校以外団体も含む		5	208	0	○
ちよこつと体験	○		1892		
創作週間			434		
実技講座	○		56		○
えのぐ開放日			210		
ねんど開放日			231		
わくわくアトリエ	○		37		○
夏休み子どもWS			10		○
未就学児向けワークショップ			12		○
ロダン館デッサン会	○		273		○
ロダン館普及事業	○		737		○
タッチツアー	○		1		○
地域連携事業			678		
展覧会関連普及事業(コンサート等)			290		○
出張美術講座	○	3	227	0	○
展覧会・収蔵品関連普及事業及び美術館活用事業、他館連携事業(フェス)	○		0		
ねんど教室		11	230	2	
えのぐ教室		17	349	3	
音のかけら	○	0	0	0	
ロダン館デッサン実習	○	5	109	0	○
ロダン館鑑賞、ななふしぎクイズ	○	4	290	0	○
美術館の秘密を探れ		4	66	0	
学校向けボランティアスタッフとの鑑賞		0	0	0	
職場体験、インターンシップ ※延べ人数		4	6	0	
粘土貸出		16	2070	1	
レプリカ貸出	○	15	2735	1	○
アートカード貸出	○	13	973	1	○
教員研修	○	3	79	0	○
	18	100	13751	8	19